

PAM通信 コラム

2009年4月発行

<第25回>ディレクシア

好きではあるのだけれど苦手だったり、体質に合わないものはありませんか？例えば私の場合、ガーリックを使った料理は味も匂いも大好きなのですが、ガーリックがきいた料理を食べ過ぎると必ずお腹の調子が悪くなってしまいます。お寿司も同様で、美味しく食べることができるのは1人前までです。生の魚や肉を美味しいとは思いますが食べ過ぎると必ず気持ちが悪くなります。素敵な女性との会話には魅力を感じますが、これも苦手（苦手の種類が違う？）です。そして、外国の文化や自然環境にとっても興味を惹かれますが、外国語の習得はとてつもなく苦手です。学生の時に英語の学習にはとてつもなく苦労しました。

最近、自分が外国語の学習が苦手な理由の一端が分かりました。それはなんと自分に識字障害（ディスレクシア）がある（疑い？）ということでした。以前から自分はカタカナを読むことが極端に苦手だということは分かっていました。外国の小説はカタカナの名前がたくさん出てきて訳が分からなくなってしまうし、TVゲームに登場するカタカナの名前がついたキャラクターや呪文などを間違えて覚えることもよくあります。アルファベットを使用する英語の習得に苦労するのも同じ理由だと思われる。

識字障害には知的能力に関係する脳の機能に異常がないのにも関わらず、書かれた文字を読めない症状等が現れます。軽い症状ではありますが私にもこの症状があります。欧米では人口の10パーセント、日本では人口の5パーセントがこの障害を持つといわれています。この障害は“人類は文字言語の使用より古くから音声言語を使用していたため、脳内の情報処理は文字を視覚で認識した後に音声に変換し理解するプロセスになっている。しかし、文字は使い始めてから5000年ほどしか経っていないため、視覚情報と音声情報の変換を上手に行えるように脳が適応しきれていない”ことが原因だと考えられています。

でも、もしかしたら、好きなものや、ことは苦手くらいで丁度良いのかもしれない。私はガーリックが苦手ではなかったら毎日大量に食べて体臭が強くなり周囲の人に不快な思いをさせているのかもしれない。自分は仕事ができると思っている介助者ほど思い込みによるミスが多いのも実際です。得意と考えたり上手くできるつもりになって自らを省みなくなると、間違えが修正できずミスを犯してそのことが嫌いになることはよくあると思います。私の場合、苦手なため時間をかけて学習した英語は得意になったとは言えませんが嫌いな分野にはなっていませんし……。